

# 春風秋霜

5月号

平成27年5月1日

島田市教育委員会だより  
教育長 濱田和彦

春風を持って人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 各種展示会や発表会に参加して

市内では様々な展示会や発表会が行われています。教育委員会が関わらないイベントも多いので、知らない内に終了していることもあります。できるだけ参加したいと考えています。

12日には、『私たちの音楽会』というピアノの発表会がおおりで行われました。技能が高い演奏が多い中、経験の浅い子供たちの演奏も一生懸命さに感動しました。

4月17日には、静岡銀行島田支店で行われた、水墨画教室に通っている生徒さんたちの作品展に行ってきました。中には岩絵具で彩色された作品もあり、その完成度の高さに驚かされました。興味を引いたのは、小学校5年生の作品です。小学生らしい雀の絵を見て、思わず微笑んでしまいました。

水墨画といえば年配者の楽しみとと思っていましたが、小学生でも興味をもつものなのです。係の人の話では、市民文化祭に展示された作品に触発されて、教室に通い始めたそうです。市民文化祭や様々な作品展を見ることによって、新しい世界に興味を持つ児童生徒もいるはずです。子供の興味や可能性はどんなことで触発されるか分かりません。市内で行われる各種イベントの紹介は、子供の可能性を広げるためにも必要だと思います。情報を得た方の発信が大切だと思います。

## 2 地域人材の活用について

文化協会の総会に参加した時、書道連盟の代表者から、学校の習字の授業の支援が可能だという話をいただきました。教師の指導の支援に徹してくれるという話に、受け入れやすい状況が整ったと思いました。

春風秋霜3月号で紹介した文化協会との連携を進めようとしている学校があります。校内にある地域に開放する部屋に作品を展示したいとのこと。作品を借りるだけでなく、指導をお願いできる団体もあります。本年度は、『夢ふくらむ文化活動奨励金』が減額されましたが、地域人材の活用により十分な成果を上げることができると思います。また、地域人材を活用することによって、子供たちと地域との結びつきを増やすことも大切だと思います。

## 3 私の主張作文応募について

今年の8月20日におおりで県教育委員会主催の『わたしの主張2015』が開催されます。中学生が日常生活の中で考えていることを広く県民に訴える場となるこの大会は、開催都市枠があり、島田市の中学生の代表が自分の考えを発表することができます。応募数は各学校2点となっていますから、各中学校の積極的な応募をお願いいたします。

先日、海外派遣をした生徒たちの報告会に参加しました。実際に海外でホームステイや学校訪問をする中でたくさんのお話を学んだようです。また、視野の広がったことを大きな収穫だと報告する生徒もいました。

昨年、島田市少年少女合唱団は東日本の被災地を訪問して、歌を披露したり、お茶をプレゼントしたりと貴重な体験をしています。ありがたい体験記に応募した子供たちの中にも、自分の体験を主張できる子供がたくさんいると思います。

せっかく、島田市での開催ですから、心を打つ主張ができたと思います。また、大会当日には、多くの中学生が『わたしの主張』を聞くことができればと思います。

#### 4 ペアレントサポーターや市子連の活動について

教職員の皆さんはペアレントサポーターの存在を知っているでしょうか。島田市には教育委員会が委嘱した16人のサポーターが相談活動や子育て広場の運営等を行っています。親なら誰でも子育ての不安を持ちます。その不安を軽減するのが、サポーターの仕事です。サポーターを育成・指導する家庭教育アドバイザーもいるので、必要に応じ活用することができるでしょう。

島田市では108の子供会があり、各子供会が独自の活動を行っています。市子連でも外来魚の駆除を兼ねた野守の池での親子ふれあい釣り大会や、各種体験、ドッジボール大会などを行っています。市子連の活動も家庭や地域の教育力として重要だと思います。学校ではできない体験も組み込まれているので、子供たちの背中を押したり、役員の負担軽減などを考えたりすることが、学校に求められると思います。

今後も様々な団体の活動を紹介していきたいと思いますので、ご理解をお願いします。

#### 5 ゴールデン ウィークでリフレッシュを

平成27年度も1ヶ月過ぎ、新しい学年や新しい分掌に慣れてきたと思います。一方で疲れもたまる時期です。ゴールデンウィークで心身のリフレッシュをしましょう。各地から花の頼りも届きます。遠出しなくても楽しめる場所はあります。ツツジや藤・ボタン・シャクナゲ・芝桜などはお勧めです。

華やかな花もいいですが、山などに自生している植物の中にも興味を引くものがありますから、近頃の里山を歩くのも楽しいと思います。写真はクルミの花です。目立たない花ですが、大井川に自生し、秋には実もなりますから、探してみてください。(房状のものが雄花、左上の赤い小さな花が雌花)



※ 大井川鉄橋の50mほどの下流やお水神さんの50m上流の大井川河川敷で見られます。

## 肘かけ椅子

畑 活年 教育部長

先日、島田市国際交流協会による「学生親善使節帰国報告会」に出席した。米国リッチモンド市やハートフォード市を訪問した中・高校生が、ホームステイを通して他国の生活や文化に触れ感じたこと、ジュニアハイスクール生との交流体験等を語ってくれた。学生からは、“初対面なのにすごくフレンドリーに接してくれた”“同じ年なのに、自分よりずっと考え方がしっかりしていた”“将来、国際的な仕事に就きたい気持ちがさらに強くなった”など、思い思いの感想が聴けた。とりわけ、“アメリカ人は自己表現が上手だった”と感想を述べる学生は毎年多い。この言葉を聴く度に、当協会の前身でもある都市提携友好協会を設立された故森昌也先生が寄稿した「わが道」の一節が思い出される。『世界中の民族を包含しつつ、平等な個人の尊厳という原則から出発しているアメリカは、「個人志向的」である。一方、長い歴史の上に築かれた伝統的な文化の下に発展して来た日本は、「集団志向的」である。この調和統一の必要を強く感じた。』と書き記された一文。

短期間の滞在ではあったが、非日常の中で暮らし体験したことで、彼ら彼女らは、多くの気づきから、心に残る何か大切なものを得たに違いない。これからも学生親善使節派遣を通して、互いの歴史や文化、考えを理解し、国際的視野を更に広げられた学生を輩出することが世界へ伸びゆく島田市♪を築く原動力となるものと思う。島田市歌にあるように。